

2025 年度 日本都市学会第 2 回理事会議報告

2025 年度第 2 回理事会は、2025 年 9 月 28 日（日）13 時 30 分から対面（於：名古屋都市センター）とオンラインで開催されました。出席者は、山崎健会長、井澤知旦、石川雄一、西野淑美、児玉浩嗣、阿部亮吾（以上対面出席）、磯部友彦、松村茂、久隆浩、田中晃代、根田克彦、豊田哲也、川瀬正樹、車相龍（以上オンライン出席）の各理事、および大塚俊幸（オブザーバー、対面出席）です。議事の概要は次の通りです。

■議題 1 2024 年度決算報告ならびに 2005 年度事業計画・予算について

第 1 回理事会の時点で監査手続きが完了していなかった 2024 年度決算の最終報告が行われました。また、2025 年度の事業計画・予算が承認されました。

■議題 2 学会賞担当事務局からの報告

学会賞について次の通り決定しました。

選考委員会の審査の結果、次の著作に日本都市学会賞（奥井記念賞）を授与することが決まりました。

◎伊藤嘉高著『移動する地域社会学—自治・共生・アクターネットワーク理論』（知泉書館、2024 年 3 月 10 日発行）

なお、日本都市学会論文賞は該当なしとなりました。それにとまって、39 歳以下の会員による論文が論文賞の審査対象となっている現行の審査基準では、会員の年齢構成の変化もあって、今後対象論文数が減少していくのではないかと懸念が提起され、基準の見直しも必要であるとの意見が共有されました。

■議題 3 年報担当事務局からの報告

年報事務局（関東都市学会）より日本都市学会の著作権にかかわる現行規定の報告があり、年報第 38 号（2005 年 5 月発行）以降の査読論文については、J-STAGE に掲載しても著作権上の問題は発生しないことが確認されました。ただし、無査読論文やシンポジウム原稿については現行規定に記載がないため、3 月の理事会に向けて改訂案を作成するとの報告がありました。

次に、その年報のバックナンバーを順次 J-STAGE に掲載していく手続きについて説明があり、年報第 47 号以降は印刷業者が PDF を保管していることが確認されているため、まずは予算との関係から年報第 45 号～57 号を優先的に作業していく旨、報告されました。それ以前の号や査読論文以外の原稿の優先順位については、規定改訂も含めて審議継続となりました。

また、年報の印刷部数と年報バックナンバーの保管部数についても提案があり、会員数の減少に合わせて発行部数も現行の 700 部から 600 部に減らすこと、そして在庫の保管部数

を各号最大 15 部にすることが承認されました。

■議題 4 論文審査担当事務局からの報告

論文審査担当事務局（東北都市学会）より、2025 年度の審査日程について、例年と変わらない旨の報告がありました。

■議題 5 第 72 回大会について

大会担当事務局（九州都市学会）より、第 72 回大会（2025 年度、佐賀大学）のプログラムが報告され、合わせて一般発表の司会者の提案がなされました。

■議題 6 第 73 回大会について

中四国都市学会より、第 73 回大会（2026 年度、徳島大学）の日程候補について報告がありましたが、会場予約の都合上現時点では決定できないため、継続審議となりました。また、大会のテーマが「水辺に調和した都市リノベーション」として提案されました。

■議題 7 その他